

共同運営部門：内視鏡センター

<スタッフ紹介>

役 職	スタッフ名
センター長 消化器内科部長	高谷 宏樹

<特色と概要>

2023年度はCOVID-19の影響は減少し検査数は増加してきた。引き続き、感染予防を徹底して内視鏡検査、処置を行った。

主に常勤の内視鏡医3人で検査・処置を行い、月曜日のみ非常勤医師の内視鏡医を加えた。

内視鏡常勤医3人で平日夜間の緊急内視鏡検査と処置を行っているが、なかなか毎日対応することは困難で、また内視鏡センター看護師の夜勤や休日勤務にも制限があり、夜間休日の対応は月に20日程度可能となっている。

2021年9月末に新内視鏡センターがオープンし、検査室が2部屋から3部屋に増床され、また、リカバリーベッドを増やし鎮静下での内視鏡検査処置に十分に対応できている。

内視鏡学会専門医・指導医2名、専門医2名が当院に常勤として在籍しており日本消化器内視鏡学会認定指導施設となっている。

当センターで研鑽を積むことで日本消化器内視鏡学会認定専門医の取得が可能である。

<実績>

内視鏡件数

	件数
上部内視鏡	3,337
上部止血	7
上部EMR	8
上部ESD	28
ERCP関連処置	200
胆膵EUS	284
下部内視鏡	1,439
下部ステント	9
下部EMR	281
下部ESD	4
総計	5,597

<今年度の反省と来年度への抱負>

COVID-19は5類感染症に移行となったが、引き続き感染対策を徹底しつつ、内視鏡検査・処置を行った。順調に前年度を上回る検査・処置を行うことができた。しかし、医師と看護師の数、時間外勤務時間の縛りもあり、地域の救急内視鏡の要請に十分にこたえることができなかった。

2017年度から内視鏡センターを整えてきた。検査数、処置数、診断レベルも向上してきた。さらに2024年度からは和歌山県立医科大学から2名の医師の派遣と消化管治療の研鑽を積んできた若手が加わり、大幅な戦力アップが期待できる。

それぞれの医師の個性を生かし、ますます地域の内視鏡医療に貢献していくつもりである。